

香川県過疎地域持続的発展方針 新旧対照表

旧	新
<p data-bbox="389 331 835 411">香川県過疎地域持続的発展方針 (令和3年度～令和7年度)</p> <p data-bbox="528 480 696 560">令和3年8月 香 川 県</p>	<p data-bbox="1397 331 1843 411">香川県過疎地域持続的発展方針 (令和3年度～令和7年度)</p> <p data-bbox="1496 480 1738 608">令和3年8月 <u>令和4年10月変更</u> 香 川 県</p>
<p data-bbox="159 692 210 719">(略)</p> <p data-bbox="551 651 674 678">目 次</p>	<p data-bbox="1155 692 1207 719">(略)</p> <p data-bbox="1559 651 1682 678">目 次</p>

第1 基本的な事項

1 過疎地域の現状

(1) 概況

① 過疎団体

(略)

香川県の過疎地域の概要

区 分	全 県 A	過疎地域 B	比率 B/A
市 町 数	17	11	64.7%
面 積	1,876.80 km ²	849.96 km ²	45.3%
<u>平成27年</u> 国調人口	<u>976,263</u> 人	<u>141,677</u> 人	14.5%
若年者比率 (15～29歳)	<u>12.8</u> %	<u>10.5</u> %	—
高齢者比率 (65歳以上)	<u>29.3</u> %	<u>38.4</u> %	—

(注) 「過疎地域」には経過措置対象地域(高松市旧塩江町地域)を含む(以下同じ。)

「面積」は、「令和3年全国都道府県市区町村別面積調」(国土交通省国土地理院)による。

ただし、直島町の面積は、境界の一部が未定のため参考値である。また、高松市旧塩江町地域、観音寺市旧豊浜町地域、三豊市旧詫間町、旧仁尾町及び旧財田町地域並びに綾川町旧綾上町地域の面積は、「平成17年全国都道府県市区町村別面積調」(国土交通省国土地理院)、さぬき市旧津田町及び旧大川町地域の面積は、「平成14年全国都道府県市区町村別面積調」(国土交通省国土地理院)による。

第1 基本的な事項

1 過疎地域の現状

(1) 概況

① 過疎団体

(略)

香川県の過疎地域の概要

区 分	全 県 A	過疎地域 B	比率 B/A
市 町 数	17	11	64.7%
面 積	<u>1,876.91</u> km ²	849.96 km ²	45.3%
<u>令和2年</u> 国調人口	<u>950,244</u> 人	<u>130,486</u> 人	<u>13.7</u> %
若年者比率 (15～29歳)	<u>12.4</u> %	<u>9.9</u> %	—
高齢者比率 (65歳以上)	<u>31.2</u> %	<u>41.4</u> %	—

(注) 「過疎地域」には経過措置対象地域(高松市旧塩江町地域)を含む(以下同じ。)

「面積」は、「令和4年全国都道府県市区町村別面積調」(国土交通省国土地理院)による。

ただし、直島町の面積は、境界の一部が未定のため参考値である。また、高松市旧塩江町地域、観音寺市旧豊浜町地域、三豊市旧詫間町、旧仁尾町及び旧財田町地域並びに綾川町旧綾上町地域の面積は、「平成17年全国都道府県市区町村別面積調」(国土交通省国土地理院)、さぬき市旧津田町及び旧大川町地域の面積は、「平成14年全国都道府県市区町村別面積調」(国土交通省国土地理院)による。

② 地 勢

過疎地域は、大部分が山間部と島しょ部に位置している。山間部には、県東部に東かがわ市（152.86km²）が位置し、県中央部で徳島県と境を接する地域に、高松市旧塩江町地域（80.10km²）、三豊市旧財田町地域（47.16km²）、綾川町旧綾上町地域（71.20km²）、琴平町（8.47km²）及びまんのう町（194.45km²）の5地域、県西部に観音寺市旧豊浜町地域（16.69km²）の一部が位置している。また、島しょ部には、土庄町（74.38km²）、小豆島町（95.59km²）及び直島町（14.22km²）が位置している。この他、県東部のさぬき市旧津田町地域（13.72km²）、県西部の観音寺市旧豊浜町地域の一部並びに三豊市旧詫間町地域（31.09km²）及び旧仁尾町地域（15.49km²）が沿岸部に位置している。

（略）

林野面積

区 分		総面積 A	林野面積 B	林野率 B/A
過 疎 地 域	高松市旧塩江町地域	80.10 km ²	67.17 km ²	83.9 %
	観音寺市旧豊浜町地 域	16.69	6.77	40.6
	さぬき市旧津田町、 旧大川町地域	48.26	26.85	55.6
	東かがわ市	152.86	103.62	67.8
	三豊市旧詫間町、旧	93.74	44.78	47.8

② 地 勢

過疎地域は、大部分が山間部と島しょ部に位置している。山間部には、県東部に東かがわ市（152.86km²）及びさぬき市旧大川町地域（34.54km²）が位置し、県中央部に、高松市旧塩江町地域（80.10km²）、三豊市旧財田町地域（47.16km²）、綾川町旧綾上町地域（71.20km²）、琴平町（8.47km²）及びまんのう町（194.45km²）の5地域、県西部に観音寺市旧豊浜町地域（16.69km²）の一部が位置している。また、島しょ部には、土庄町（74.38km²）、小豆島町（95.59km²）及び直島町（14.22km²）が位置している。この他、県東部のさぬき市旧津田町地域（13.72km²）、県西部の観音寺市旧豊浜町地域の一部並びに三豊市旧詫間町地域（31.09km²）及び旧仁尾町地域（15.49km²）が沿岸部に位置している。

（略）

林野面積

区 分		総面積 A	林野面積 B	林野率 B/A
過 疎 地 域	高松市旧塩江町地域	80.10 km ²	67.17 km ²	83.9 %
	観音寺市旧豊浜町地 域	16.69	6.77	40.6
	さぬき市旧津田町、 旧大川町地域	48.26	26.85	55.6
	東かがわ市	152.86	103.62	67.8
	三豊市旧詫間町、旧	93.74	44.78	47.8

仁尾町、旧財田町地域			
土庄町	74.38	47.33	63.6
小豆島町	95.59	69.46	72.7
直島町	14.22	9.72	68.4
綾川町旧綾上町地域	71.20	44.29	62.2
琴平町	8.47	2.03	24.0
まんのう町	194.45	132.34	68.1
計	849.96	554.36	65.2
全 県	<u>1,876.80</u>	871.18	46.4

(注) 1 「総面積」は、「令和3年全国都道府県市区町村別面積調」(国土交通省国土地理院)による。ただし、直島町の面積は、境界未定部があるため参考値である。また、高松市旧塩江町地域、観音寺市旧豊浜町地域、三豊市旧詫間町、旧仁尾町及び旧財田町地域並びに綾川町旧綾上町地域の面積は、「平成17年全国都道府県市区町村別面積調」(国土交通省国土地理院)、さぬき市旧津田町及び旧大川町地域の面積は、「平成14年全国都道府県市区町村別面積調」(国土交通省国土地理院)による。

2 「林野面積」は、「2015年農林業センサス」による(2020年以降は合併前の旧町単位の統計はない。)

③ 人 口

ア 人口の推移

(ア) 過疎地域と全県の比較

過疎地域の人口の推移を国勢調査ベースで見ると、昭和 50 年か

仁尾町、旧財田町地域			
土庄町	74.38	47.33	63.6
小豆島町	95.59	69.46	72.7
直島町	14.22	9.72	68.4
綾川町旧綾上町地域	71.20	44.29	62.2
琴平町	8.47	2.03	24.0
まんのう町	194.45	132.34	68.1
計	849.96	554.36	65.2
全 県	<u>1,876.91</u>	871.18	46.4

(注) 1 「総面積」は、「令和4年全国都道府県市区町村別面積調」(国土交通省国土地理院)による。ただし、直島町の面積は、境界未定部があるため参考値である。また、高松市旧塩江町地域、観音寺市旧豊浜町地域、三豊市旧詫間町、旧仁尾町及び旧財田町地域並びに綾川町旧綾上町地域の面積は、「平成17年全国都道府県市区町村別面積調」(国土交通省国土地理院)、さぬき市旧津田町及び旧大川町地域の面積は、「平成14年全国都道府県市区町村別面積調」(国土交通省国土地理院)による。

2 「林野面積」は、「2015年農林業センサス」による(2020年以降は合併前の旧町単位の統計はない。)

③ 人 口

ア 人口の推移

(ア) 過疎地域と全県の比較

過疎地域の人口の推移を国勢調査ベースで見ると、昭和 55 年から

ら平成 27 年までに約 6 万人減少している。一方、県総人口は、平成 7 年までは増加傾向にあったが、それ以降は減少に転じている。

県総人口に占める過疎地域の割合も減少傾向にあり、昭和 50 年の 21.0% に対し、平成 7 年には 17.6%、平成 27 年には 14.5% となっており、県総人口が減少に転じる中、それ以上に過疎地域の人口減少が続いている。

(イ) 人口増減率

過疎地域の人口減少率をみると、昭和 50 年から平成 7 年までの人口減少率が 10.3% であったのに対し、昭和 50 年から平成 27 年までの減少率は 29.8% となっており、大幅に拡大している。

これに対し、全県では、昭和 50 年から平成 7 年までの人口増加率が 6.8%、昭和 50 年から平成 27 年までの人口増加率は 1.6% となっている。

a 人口の推移
(略)

b 人口増減率
(略)

イ 年齢階層別人口

(ア) 過疎地域と全県の比較

平成 27 年国勢調査により、過疎地域と全県の人口構成比を比較すると、65 歳以上の比率が全県の 29.9% に対し、過疎地域では

令和 2 年までに約 7 万人減少している。一方、県総人口は、平成 7 年までは増加傾向にあったが、それ以降は減少に転じている。

県総人口に占める過疎地域の割合も減少傾向にあり、昭和 55 年の 20.1% に対し、平成 7 年には 17.6%、令和 2 年には 13.7% となっており、県総人口が減少に転じる中、それ以上に過疎地域の人口減少が続いている。

(イ) 人口増減率

過疎地域の人口減少率をみると、昭和 55 年から平成 7 年までの人口減少率が 9.7% であったのに対し、昭和 55 年から令和 2 年までの減少率は 34.9% となっており、大幅に拡大している。

これに対し、全県では、昭和 55 年から平成 7 年までの人口増加率が 2.7%、昭和 55 年から令和 2 年までの人口増加率は 5.0% となっている。

a 人口の推移
(略：令和 2 年分を追記)

b 人口増減率
(略：R2/S55 及び R2/H7 を追記)

イ 年齢階層別人口

(ア) 過疎地域と全県の比較

令和 2 年国勢調査により、過疎地域と全県の人口構成比を比較すると、65 歳以上の比率が全県の 31.9% に対し、過疎地域では 41.6% と

38.5%と高くなっており、県内でも高齢化が先行した人口構成となっている。

(イ) 年齢階層別人口の推移

過疎地域の昭和50年から平成27年までの間の年齢階層別人口の推移をみると、0～14歳の階層は42,372人から14,396人（減少率66.0%）と大幅に減少し、全体に占める割合も21.0%から10.2%と大きく減少している。また、生産年齢人口である15～64歳の階層は、133,828人から72,674人（減少率45.7%）に減少している。

これに対し、65歳以上の高齢者階層は、25,661人から54,406人（増加率112.0%）へと大幅に増加し、全体に占める割合も12.7%から38.5%へと大きく上昇している。

過疎地域においては、依然として若年層を中心とした人口流出が続いており、これに伴い、高齢化の顕著な進行がみられる。

a 過疎地域の年齢階層別人口構成比の推移
(略)

b 年齢5歳階層別人口及び構成比
(略)

④ 世帯数

世帯数を平成17年から平成27年までの10年間についてみると、全県では21,968世帯、5.8%の増加に対し、過疎地域では2,533世帯、4.4%の減少となっている。

高くなっており、県内でも高齢化が先行した人口構成となっている。

(イ) 年齢階層別人口の推移

過疎地域の昭和55年から令和2年までの間の年齢階層別人口の推移をみると、0～14歳の階層は40,765人から12,433人（減少率69.5%）と大幅に減少し、全体に占める割合も20.3%から9.6%と大きく減少している。また、生産年齢人口である15～64歳の階層は、130,605人から63,390人（減少率51.5%）に減少している。

これに対し、65歳以上の高齢者階層は、29,080人から54,014人（増加率85.7%）へと大幅に増加し、全体に占める割合も14.5%から41.6%へと大きく上昇している。

過疎地域においては、依然として若年層を中心とした人口流出が続いており、これに伴い、高齢化の顕著な進行がみられる。

a 過疎地域の年齢階層別人口構成比の推移
(略：令和2年分を追記)

b 年齢5歳階層別人口及び構成比
(略：令和2年分を追記)

④ 世帯数

世帯数を平成22年から令和2年までの10年間についてみると、全県では15,588世帯、4.0%の増加に対し、過疎地域では3,051世帯、5.4%の減少となっている。

また、過疎地域の高齢者単身世帯（65歳以上の者1人のみからなる世帯）は、15.9%であり、非過疎地域（11.5%）と比べて高くなっている。

ア 過疎地域の総世帯数 (単位：世帯)

区分	総世帯数			人口増減率 (H27/H17)	
	平成17年 A	平成27年 B	増減率 (B/A*100-100)		
過疎地域	高松市旧塩江町地域	<u>1,190</u>	<u>1,054</u>	<u>▲11.4</u> %	<u>▲20.2</u> %
	観音寺市旧豊浜町地域	<u>2,858</u>	<u>2,735</u>	<u>▲4.3</u>	<u>▲13.0</u>
	さぬき市旧津田町、旧大川町地域	<u>4,842</u>	<u>4,587</u>	<u>▲5.3</u>	<u>▲14.1</u>
	東かがわ市	<u>12,880</u>	<u>12,413</u>	<u>▲3.6</u>	<u>▲13.6</u>
	三豊市旧詫間町、旧仁尾町、旧財田町地域	<u>8,816</u>	<u>8,392</u>	<u>▲4.8</u>	<u>▲11.1</u>
	土庄町	<u>6,589</u>	<u>6,050</u>	<u>▲8.2</u>	<u>▲14.7</u>
	小豆島町	<u>6,758</u>	<u>6,386</u>	<u>▲5.5</u>	<u>▲13.9</u>
	直島町	<u>1,501</u>	<u>1,513</u>	<u>0.8</u>	<u>▲11.3</u>

また、過疎地域の高齢者単身世帯（65歳以上の者1人のみからなる世帯）は、17.9%であり、非過疎地域（12.4%）と比べて高くなっている。

ア 過疎地域の総世帯数 (単位：世帯)

区分	総世帯数			人口増減率 (H22/R2)	
	平成22年 A	令和2年 B	増減率 (B/A*100-100)		
過疎地域	高松市旧塩江町地域	<u>1,118</u>	<u>961</u>	<u>▲14.0</u> %	<u>▲28.4</u> %
	観音寺市旧豊浜町地域	<u>2,852</u>	<u>2,825</u>	<u>▲0.9</u>	<u>▲10.3</u>
	さぬき市旧津田町、旧大川町地域	<u>4,739</u>	<u>4,364</u>	<u>▲7.9</u>	<u>▲17.7</u>
	東かがわ市	<u>12,754</u>	<u>11,887</u>	<u>▲6.8</u>	<u>▲15.9</u>
	三豊市旧詫間町、旧仁尾町、旧財田町地域	<u>8,663</u>	<u>8,234</u>	<u>▲5.0</u>	<u>▲14.1</u>
	土庄町	<u>6,297</u>	<u>5,737</u>	<u>▲8.9</u>	<u>▲15.1</u>
	小豆島町	<u>6,716</u>	<u>6,137</u>	<u>▲8.6</u>	<u>▲14.1</u>
	直島町	<u>1,510</u>	<u>1,556</u>	<u>3.0</u>	<u>▲6.7</u>

綾川町旧綾 上町地域	<u>2,008</u>	<u>1,969</u>	<u>▲1.9</u>	<u>▲15.9</u>
琴平町	<u>4,121</u>	<u>3,699</u>	<u>▲10.2</u>	<u>▲14.5</u>
まんのう町	<u>6,203</u>	<u>6,435</u>	<u>3.7</u>	<u>▲7.6</u>
計	<u>57,766</u>	<u>55,233</u>	<u>▲4.4</u>	<u>▲12.9</u>
全県	<u>375,634</u>	<u>397,602</u>	<u>5.8</u>	<u>▲3.6</u>

(注) 1 国勢調査による。
2 「総世帯数」は、一般世帯の総数である。

イ 県内の高齢者世帯数 (単位：世帯)

区 分	総世帯数	高齢者世帯数		
		単身	単身以外	計
過疎地域	<u>55,233</u> (100.0%)	<u>8,804</u> (15.9%)	<u>25,111</u> (45.5%)	<u>33,915</u> (61.4%)
非過疎地域	<u>342,369</u> (100.0%)	<u>39,390</u> (11.5%)	<u>107,124</u> (31.3%)	<u>146,514</u> (42.8%)
全県	<u>397,602</u> (100.0%)	<u>48,194</u> (12.1%)	<u>132,235</u> (33.3%)	<u>180,429</u> (45.4%)

(注) 1 平成27年国勢調査による。
2 「総世帯数」は、一般世帯の総数である。
3 「高齢者世帯」とは、65歳以上の世帯員のいる世帯をいう。
4 「高齢者世帯数」欄中「単身」とは、65歳以上の者1人のみの一般世帯（他の世帯員がないもの）をいう。

(2) 産 業

① 就業構造

綾川町旧綾 上町地域	<u>1,974</u>	<u>1,918</u>	<u>▲2.8</u>	<u>▲18.1</u>
琴平町	<u>3,880</u>	<u>3,667</u>	<u>▲5.5</u>	<u>▲15.0</u>
まんのう町	<u>6,355</u>	<u>6,521</u>	<u>2.6</u>	<u>▲8.8</u>
計	<u>56,858</u>	<u>53,807</u>	<u>▲5.4</u>	<u>▲14.4</u>
全県	<u>390,474</u>	<u>406,062</u>	<u>4.0</u>	<u>▲4.6</u>

(注) 1 国勢調査による。
2 「総世帯数」は、一般世帯の総数である。

イ 県内の高齢者世帯数 (単位：世帯)

区 分	総世帯数	高齢者世帯数		
		単身	単身以外	計
過疎地域	<u>53,807</u> (100.0%)	<u>9,633</u> (17.9%)	<u>23,688</u> (44.0%)	<u>33,321</u> (61.9%)
非過疎地域	<u>352,255</u> (100.0%)	<u>43,668</u> (12.4%)	<u>107,348</u> (30.5%)	<u>151,016</u> (42.9%)
全県	<u>406,062</u> (100.0%)	<u>53,301</u> (13.1%)	<u>131,036</u> (32.3%)	<u>184,337</u> (45.4%)

(注) 1 令和2年国勢調査による。
2 「総世帯数」は、一般世帯の総数である。
3 「高齢者世帯」とは、65歳以上の世帯員のいる世帯をいう。
4 「高齢者世帯数」欄中「単身」とは、65歳以上の者1人のみの一般世帯（他の世帯員がないもの）をいう。

(2) 産 業

① 就業構造

平成 27 年における過疎地域の就業者総数は 66,643 人で、地域内の総人口 141,677 人に占める割合は 47.0% となっており、昭和 50 年の 51.1% から 4.1% 減少している。

昭和 50 年には、農業など第 1 次産業従事者の割合は 21.6% であったのが、平成 27 年には 9.3% と大幅に減少する一方で、第 3 次産業従事者の割合は昭和 50 年には 40.3% だったものが、平成 27 年には 58.3% を占めるに至っており、全県の傾向と同様に就業構造に変化がみられる。

過疎地域の就業構造

(略)

② 農 業

(略)

ア 経営耕地面積等

区 分		総面積	経営耕地面積	経営耕地面積比率	農家数	農家 1 戸 当たり経営耕地面積
		A	B	B/A	C	B/C
過 疎 地 域	高松市	8,010 ha	89 ha	1.12 %	249 戸	0.36 ha
	旧塩江町地域					
	観音寺市	1,669	209	12.52	233	0.90
	旧豊浜町地域					

令和 2 年における過疎地域の就業者総数は 61,604 人で、地域内の総人口 130,486 人に占める割合は 47.2% となっており、昭和 50 年の 51.1% から 3.9% 減少している。

昭和 50 年には、農業など第 1 次産業従事者の割合は 21.6% であったのが、令和 2 年には 8.5% と大幅に減少する一方で、第 3 次産業従事者の割合は昭和 50 年には 40.3% だったものが、令和 2 年には 59.1% を占めるに至っており、全県の傾向と同様に就業構造に変化がみられる。

過疎地域の就業構造

(略：令和 2 年分を追記)

② 農 業

(略)

ア 経営耕地面積等

区 分		総面積	経営耕地面積	経営耕地面積比率	農家数	農家 1 戸 当たり経営耕地面積
		A	B	B/A	C	B/C
過 疎 地 域	高松市	8,010 ha	89 ha	1.12 %	249 戸	0.36 ha
	旧塩江町地域					
	観音寺市	1,669	209	12.52	233	0.90
	旧豊浜町地域					

さぬき市旧津田町、旧大川町地域	4,826	385	7.98	690	0.56
東かがわ市	15,286	900	5.89	1,299	0.69
三豊市旧詫間町、旧仁尾町、旧財田町地域	9,374	630	6.72	1,052	0.60
土庄町	7,438	149	2.00	430	0.35
小豆島町	9,559	124	1.30	434	0.29
直島町	1,422	5	0.35	34	0.15
綾川町 旧綾上町地域	7,120	410	5.76	622	0.66
琴平町	847	117	13.81	227	0.52
まんのう町	19,445	1,165	5.99	1,782	0.65
計	84,996	<u>4,184</u>	4.92	7,052	0.59
全 県	<u>187,680</u>	17,132	9.13	29,222	0.58

- (注) 1 「総面積」は、「令和3年全国都道府県市区町村別面積調」(国土交通省国土地理院)による。
ただし、直島町の面積は、境界の一部が未定のため、参考値である。また、高松市旧塩江町地域、観音寺市旧豊浜町地域、三豊市旧詫間町、旧仁尾町及び旧財田町地域並びに綾川町旧綾上町地域は、「平成17年全国都道府県市区町村別面積調」(国土交通省国土地理院)、さぬき市旧津田町及び旧大川町地域の面積は、「平成14年全国都道府県市区町村別面積調」(国土交通省国土地理院)による。
- 2 「経営耕地面積」及び「農家数」は、「2020年農林業センサス」による。

さぬき市旧津田町、旧大川町地域	4,826	385	7.98	690	0.56
東かがわ市	15,286	900	5.89	1,299	0.69
三豊市旧詫間町、旧仁尾町、旧財田町地域	9,374	630	6.72	1,052	0.60
土庄町	7,438	149	2.00	430	0.35
小豆島町	9,559	124	1.30	434	0.29
直島町	1,422	5	0.35	34	0.15
綾川町 旧綾上町地域	7,120	410	5.76	622	0.66
琴平町	847	117	13.81	227	0.52
まんのう町	19,445	1,165	5.99	1,782	0.65
計	84,996	<u>4,183</u>	4.92	7,052	0.59
全 県	<u>187,691</u>	17,132	9.13	29,222	0.58

- (注) 1 「総面積」は、「令和4年全国都道府県市区町村別面積調」(国土交通省国土地理院)による。
ただし、直島町の面積は、境界の一部が未定のため、参考値である。また、高松市旧塩江町地域、観音寺市旧豊浜町地域、三豊市旧詫間町、旧仁尾町及び旧財田町地域並びに綾川町旧綾上町地域は、「平成17年全国都道府県市区町村別面積調」(国土交通省国土地理院)、さぬき市旧津田町及び旧大川町地域の面積は、「平成14年全国都道府県市区町村別面積調」(国土交通省国土地理院)による。
- 2 「経営耕地面積」及び「農家数」は、「2020年農林業センサス」による。

イ 主副業別経営体数

(単位：戸（平成22年）、経営体（令和2年）)

区分		平成22年 A	令和2年 B	増減率（参考 値） (B/A*100-100)
高松市 旧塩江町 地域	主業経営体	16	11	▲ 31.3%
	準主業経営体	47	11	▲ 76.6
	副業的経営体	123	74	▲ 39.8
	計	186	96	▲ 48.4
観音寺市 旧豊浜町 地域	主業経営体	68	47	▲ 30.9
	準主業経営体	70	23	▲ 67.1
	副業的経営体	122	95	▲ 22.1
	計	260	165	▲ 36.5
さぬき市 旧津田 町、旧大 川町地域	主業経営体	54	27	▲ 50.0
	準主業経営体	115	39	▲ 66.1
	副業的経営体	455	359	▲ 21.1
	計	624	425	▲ 31.9
東かがわ 市	主業経営体	152	91	▲ 40.1
	準主業経営体	210	66	▲ 68.6
	副業的経営体	882	607	▲ 31.2
	計	1,244	764	▲ 38.6
三豊市旧 詫間町、 旧仁尾	主業経営体	173	105	▲ 39.3
	準主業経営体	178	81	▲ 54.5
	副業的経営体	503	406	▲ 19.3

イ 主副業別経営体数

(単位：戸（平成22年）、経営体（令和2年）)

区分		平成22年 A	令和2年 B	増減率（参考 値） (B/A*100-100)
高松市 旧塩江町 地域	主業経営体	16	11	▲ 31.3%
	準主業経営体	47	11	▲ 76.6
	副業的経営体	123	74	▲ 39.8
	計	186	96	▲ 48.4
観音寺市 旧豊浜町 地域	主業経営体	68	47	▲ 30.9
	準主業経営体	70	23	▲ 67.1
	副業的経営体	122	95	▲ 22.1
	計	260	165	▲ 36.5
さぬき市 旧津田 町、旧大 川町地域	主業経営体	54	27	▲ 50.0
	準主業経営体	115	39	▲ 66.1
	副業的経営体	455	359	▲ 21.1
	計	624	425	▲ 31.9
東かがわ 市	主業経営体	152	91	▲ 40.1
	準主業経営体	210	66	▲ 68.6
	副業的経営体	882	607	▲ 31.2
	計	1,244	764	▲ 38.6
三豊市旧 詫間町、 旧仁尾	主業経営体	173	105	▲ 39.3
	準主業経営体	178	81	▲ 54.5
	副業的経営体	503	406	▲ 19.3

町、旧財田町地域	計	854	592	▲ 30.7	町、旧財田町地域	計	854	592	▲ 30.7
土庄町	主業経営体	44	<u>1</u>	▲ <u>97.7</u>	土庄町	主業経営体	44	<u>28</u>	▲ <u>36.4</u>
	準主業経営体	40	<u>4</u>	▲ <u>90.0</u>		準主業経営体	40	<u>9</u>	▲ <u>77.5</u>
	副業的経営体	118	<u>12</u>	▲ <u>89.8</u>		副業的経営体	118	<u>100</u>	▲ <u>15.3</u>
	計	202	<u>17</u>	▲ <u>91.6</u>		計	202	<u>137</u>	▲ <u>32.2</u>
小豆島町	主業経営体	40	21	▲ 47.5	小豆島町	主業経営体	40	21	▲ 47.5
	準主業経営体	24	14	▲ 41.7		準主業経営体	24	14	▲ 41.7
	副業的経営体	102	94	▲ 7.8		副業的経営体	102	94	▲ 7.8
	計	166	129	▲ 22.3		計	166	129	▲ 22.3
直島町	主業経営体	0	0	—	直島町	主業経営体	0	0	—
	準主業経営体	0	0	—		準主業経営体	0	0	—
	副業的経営体	0	0	—		副業的経営体	0	0	—
	計	0	0	—		計	0	0	—
綾川町 旧綾上町 地域	主業経営体	38	24	▲ 36.8	綾川町 旧綾上町 地域	主業経営体	38	24	▲ 36.8
	準主業経営体	128	48	▲ 62.5		準主業経営体	128	48	▲ 62.5
	副業的経営体	480	327	▲ 31.9		副業的経営体	480	327	▲ 31.9
	計	646	399	▲ 38.2		計	646	399	▲ 38.2
琴平町	主業経営体	20	20	0.0	琴平町	主業経営体	20	20	0.0
	準主業経営体	47	12	▲ 74.5		準主業経営体	47	12	▲ 74.5
	副業的経営体	65	62	▲ 4.6		副業的経営体	65	62	▲ 4.6
	計	132	94	▲ 28.8		計	132	94	▲ 28.8
まんのう町	主業経営体	150	86	▲ 42.7	まんのう町	主業経営体	150	86	▲ 42.7
	準主業経営体	507	160	▲ 68.4		準主業経営体	507	160	▲ 68.4

	副業的経営体	1,108	831	▲ 25.0
	計	1,765	1,077	▲ 39.0
計	主業経営体	755	<u>433</u>	▲ <u>42.6</u>
	準主業経営体	1,366	<u>458</u>	▲ <u>66.5</u>
	副業的経営体	3,958	<u>2,867</u>	▲ <u>27.6</u>
	計	6,079	<u>3,758</u>	▲ <u>38.2</u>
全 県	主業経営体	3,051	1,752	▲ 42.6
	準主業経営体	5,563	1,826	▲ 67.2
	副業的経営体	16,350	12,445	▲ 23.9
	計	24,964	16,023	▲ 35.8

(注) 1 「2020年農林業センサス」による。
 2 統計方法の変更により、令和2年は個人経営体に係る数、平成22年は販売農家に係る数を記載しているため、単純比較はできない。

	副業的経営体	1,108	831	▲ 25.0
	計	1,765	1,077	▲ 39.0
計	主業経営体	755	<u>460</u>	▲ <u>39.1</u>
	準主業経営体	1,366	<u>463</u>	▲ <u>66.1</u>
	副業的経営体	3,958	<u>2,955</u>	▲ <u>25.3</u>
	計	6,079	<u>3,878</u>	▲ <u>36.2</u>
全 県	主業経営体	3,051	1,752	▲ 42.6
	準主業経営体	5,563	1,826	▲ 67.2
	副業的経営体	16,350	12,445	▲ 23.9
	計	24,964	16,023	▲ 35.8

(注) 1 「2020年農林業センサス」による。
 2 統計方法の変更により、令和2年は個人経営体に係る数、平成22年は販売農家に係る数を記載しているため、単純比較はできない。

③～⑧
(略)

③～⑧
(略)

(3) 交通通信体系、生活環境等

(3) 交通通信体系、生活環境等

① 交通
(略)

① 交通
(略)

道路の整備状況

道路の整備状況

(単位：%)

(単位：%)

区分	県道	市町道
----	----	-----

区分	県道	市町道
----	----	-----

		改良率	舗装率	改良率	舗装率
過疎地域	高松市旧塩江町地域	<u>48.9</u>	100.0	44.5	99.8
	観音寺市旧豊浜町地域	100.0	100.0	67.8	97.6
	さぬき市旧津田町、旧大川町地域	89.5	100.0	71.9	94.9
	東かがわ市	76.8	99.4	65.2	97.3
	三豊市旧詫間町、旧仁尾町、旧財田町地域	<u>90.5</u>	100.0	56.8	95.7
	土庄町	92.5	100.0	31.7	85.4
	小豆島町	78.8	100.0	<u>55.0</u>	<u>94.6</u>
	直島町	73.3	100.0	<u>31.4</u>	86.5
	綾川町旧綾上町地域	82.3	100.0	67.6	99.9
	琴平町	76.4	100.0	48.8	94.0
	まんのう町	78.3	100.0	<u>48.4</u>	<u>91.2</u>
	全 域	<u>80.6</u>	99.9	<u>54.8</u>	<u>94.1</u>
全 県	<u>85.7</u>	99.9	<u>62.7</u>	95.3	

(注) 1 令和2年4月1日現在
2 「県道」は、大規模自転車道を含まない。

② 通信・情報化

(略)

		改良率	舗装率	改良率	舗装率
過疎地域	高松市旧塩江町地域	<u>49.6</u>	100.0	44.5	99.8
	観音寺市旧豊浜町地域	100.0	100.0	67.8	97.6
	さぬき市旧津田町、旧大川町地域	89.5	100.0	71.9	94.9
	東かがわ市	76.8	99.4	65.2	97.3
	三豊市旧詫間町、旧仁尾町、旧財田町地域	<u>91.2</u>	100.0	56.8	95.7
	土庄町	92.5	100.0	31.7	85.4
	小豆島町	78.8	100.0	<u>55.6</u>	<u>94.8</u>
	直島町	73.3	100.0	<u>31.7</u>	86.5
	綾川町旧綾上町地域	82.3	100.0	67.6	99.9
	琴平町	76.4	100.0	48.8	94.0
	まんのう町	78.3	100.0	<u>48.5</u>	<u>91.8</u>
	全 域	<u>80.8</u>	99.9	<u>54.9</u>	<u>94.2</u>
全 県	<u>85.9</u>	99.9	<u>63.0</u>	95.3	

(注) 1 令和3年4月1日現在
2 「県道」は、大規模自転車道を含まない。

② 通信・情報化

(略)

③ 水道

(略)

水道普及率

区 分		平成 <u>21</u> 年度末	令和 <u>元</u> 年度末
過疎地域	高松市旧塩江町地域	<u>79.3</u> %	<u>78.2</u> %
	観音寺市旧豊浜町地域	<u>98.9</u>	<u>99.0</u>
	さぬき市旧津田町、旧大川町地域	<u>99.2</u>	<u>99.3</u>
	東かがわ市	<u>98.4</u>	<u>99.7</u>
	三豊市旧詫間町、旧仁尾町、旧財田町地域	<u>98.3</u>	<u>98.5</u>
	土庄町	<u>99.3</u>	<u>99.3</u>
	小豆島町	<u>98.0</u>	<u>98.7</u>
	直島町	<u>97.2</u>	<u>100.0</u>
	綾川町旧綾上町地域	<u>95.6</u>	<u>96.7</u>
	琴平町	<u>99.9</u>	<u>99.9</u>

③ 水道

(略)

水道普及率

区 分		平成 <u>22</u> 年度末	令和 <u>2</u> 年度末
過疎地域	高松市旧塩江町地域	<u>79.4</u> %	<u>77.9</u> %
	観音寺市旧豊浜町地域	<u>98.7</u>	<u>98.9</u>
	さぬき市旧津田町、旧大川町地域	<u>99.1</u>	<u>99.3</u>
	東かがわ市	<u>98.8</u>	<u>99.3</u>
	三豊市旧詫間町、旧仁尾町、旧財田町地域	<u>98.3</u>	<u>98.5</u>
	土庄町	<u>99.0</u>	<u>99.3</u>
	小豆島町	<u>98.1</u>	<u>98.6</u>
	直島町	<u>98.1</u>	<u>99.9</u>
	綾川町旧綾上町地域	<u>95.6</u>	<u>96.7</u>
	琴平町	<u>99.9</u>	<u>100.0</u>

	まんのう町	<u>96.3</u>	<u>97.8</u>
	全 県	<u>99.2</u>	<u>99.4</u>

④～⑧

(略)

⑨ 社会教育

(略)

公民館・図書館の設置数

区 分	公民館数	図書館数
過疎地域	61 (16)	8
高松市旧塩江町地域	0 (1)	0
観音寺市旧豊浜町地域	1	1
さぬき市旧津田町、旧大川町地域	3	0
東かがわ市	4 (13)	1
三豊市旧詫間町、旧仁尾町、旧財田町地域	11	2
土庄町	7 (1)	1
小豆島町	19 (1)	1
直島町	1	0

	まんのう町	<u>97.6</u>	<u>97.8</u>
	全 県	<u>99.2</u>	<u>99.6</u>

④～⑧

(略)

⑨ 社会教育

(略)

公民館・図書館の設置数

区 分	公民館数	図書館数
過疎地域	61 (16)	8
高松市旧塩江町地域	0 (1)	0
観音寺市旧豊浜町地域	1	1
さぬき市旧津田町、旧大川町地域	3	0
東かがわ市	4 (13)	1
三豊市旧詫間町、旧仁尾町、旧財田町地域	11	2
土庄町	7 (1)	1
小豆島町	19 (1)	1
直島町	1	0

綾川町旧綾上町地域	5	1
琴平町	3	0
まんのう町	7	1

(注) 令和3年4月1日現在

() は、公民館類似施設数で外数

⑩ 文化芸術振興

(略)

(4) 過疎対策事業の実績

(略)

県及び関係市町における過疎対策事業の実績は、次のとおりである。

(単位：百万円)

区 分		期 間	平成 22 年度 ～平成 27 年度	平成 28 年度 ～令和 <u>元</u> 年度
市 町 計 画	高松市		5,082	<u>919</u>
	旧塩江町地域			
	東かがわ市		66,359	<u>44,393</u>
	土庄町		14,850	<u>12,294</u>
	小豆島町		9,307	<u>5,561</u>
	直島町		4,071	<u>2,641</u>
	綾川町		2,726	<u>1,953</u>
	旧綾上町地域			
	琴平町		2,539	<u>3,680</u>

綾川町旧綾上町地域	5	1
琴平町	3	0
まんのう町	7	1

(注) 公民館数については令和4年1月1日現在、図書館数については令和4年4月1日現在

⑩ 文化芸術振興

(略)

(4) 過疎対策事業の実績

(略)

県及び関係市町における過疎対策事業の実績は、次のとおりである。

(単位：百万円)

区 分		期 間	平成 22 年度 ～平成 27 年度	平成 28 年度 ～令和 <u>2</u> 年度
市 町 計 画	高松市		5,082	<u>1,701</u>
	旧塩江町地域			
	東かがわ市		66,359	<u>54,193</u>
	土庄町		14,850	<u>16,597</u>
	小豆島町		9,307	<u>7,661</u>
	直島町		4,071	<u>2,970</u>
	綾川町		2,726	<u>2,492</u>
	旧綾上町地域			
	琴平町		2,539	<u>4,495</u>

まんのう町	8,909	<u>5,562</u>
計	113,843	<u>77,004</u>
県 計 画	27,288	<u>15,194</u>

(注) 観音寺市旧豊浜町地域、さぬき市旧津田町及び旧大川町地域並びに三豊市旧詫間町、旧仁尾町及び旧財田町地域は令和3年4月1日施行「過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法」により新たに指定されたため、実績なし。
端数処理のため、合計値が一致しない箇所がある。

2～5
(略)

第3～第4
(略)

第5 交通施設の整備、交通手段の確保

1 交通施設の整備、交通手段の確保の方針
(略)

2 県道及び市町道の整備

過疎地域における県道の整備状況(令和2年4月1日現在)は、改良率80.6%、舗装率99.9%となっており、県内の県道全体の改良率85.7%、舗装率99.9%に比べ、改良率が低い水準にある。

また、市町道の整備状況(令和2年4月1日現在)は、改良率54.8%、舗装

まんのう町	8,909	<u>6,981</u>
計	113,843	<u>97,091</u>
県 計 画	27,288	<u>17,392</u>

(注) 観音寺市旧豊浜町地域、さぬき市旧津田町及び旧大川町地域並びに三豊市旧詫間町、旧仁尾町及び旧財田町地域は令和3年4月1日施行「過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法」により新たに指定されたため、令和2年度までの実績なし。

端数処理のため、合計値が一致しない箇所がある。

2～5
(略)

第5 交通施設の整備、交通手段の確保

1 交通施設の整備、交通手段の確保の方針
(略)

2 県道及び市町道の整備

過疎地域における県道の整備状況(令和3年4月1日現在)は、改良率80.8%、舗装率99.9%となっており、県内の県道全体の改良率85.9%、舗装率99.9%に比べ、改良率が低い水準にある。

また、市町道の整備状況(令和3年4月1日現在)は、改良率54.9%、舗装率

<p>率 <u>94.1%</u>となっており、県内の市町道全体の改良率 <u>62.7%</u>、舗装率 95.3%に比べ、改良率が低い水準にある。</p> <p>このため、県道整備を積極的に推進するとともに、日常生活の根幹である市町道についても、特に、幹線市町道に力点を置いて整備を図る。</p> <p>また、代行制度による幹線市町道の整備については、制度の趣旨を踏まえ、推進に努める。</p> <p>3～4 (略)</p> <p>第6～第12 (略) 生活環境の整備</p> <p>第13 共助の社会づくり</p> <p>1 共助の社会づくりの方針 (略)</p> <p>2 多様な機能を有するコミュニティづくり</p> <p>少子・高齢社会における地域住民の安全・安心の向上などを目標に、地域住民が互いに助け合いながら、日常は、高齢者や子育て家庭への支援、環境美化、<u>ゴミ</u>分別・リサイクル活動、防犯や交通安全、異世代間交流などの活動を行い、災害や事故が発生したときには、被害の発生・拡大の防止や救護活動を行うなど、多様な機能を有するコミュニティづくりを促進する。</p> <p>3 NPO・ボランティア活動の促進 (略)</p>	<p><u>94.2%</u>となっており、県内の市町道全体の改良率 <u>63.0%</u>、舗装率 95.3%に比べ、改良率が低い水準にある。</p> <p>このため、県道整備を積極的に推進するとともに、日常生活の根幹である市町道についても、特に、幹線市町道に力点を置いて整備を図る。</p> <p>また、代行制度による幹線市町道の整備については、制度の趣旨を踏まえ、推進に努める。</p> <p>3～4 (略)</p> <p>第6～第12 (略)</p> <p>第13 共助の社会づくり</p> <p>1 共助の社会づくりの方針 (略)</p> <p>2 多様な機能を有するコミュニティづくり</p> <p>少子・高齢社会における地域住民の安全・安心の向上などを目標に、地域住民が互いに助け合いながら、日常は、高齢者や子育て家庭への支援、環境美化、<u>ごみ</u>分別・リサイクル活動、防犯や交通安全、異世代間交流などの活動を行い、災害や事故が発生したときには、被害の発生・拡大の防止や救護活動を行うなど、多様な機能を有するコミュニティづくりを促進する。</p> <p>3 NPO・ボランティア活動の促進 (略)</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------